

# 社会福祉法人 仙台市社会事業協会

## 《令和5年 新年のご挨拶》

P 2～3. 会長、副会長、事務局長のご挨拶

### ～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園  
特定施設 仙台長生園

P 3～7. 仙台楽生園ユニットケア施設群  
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、仙台楽生園短期入所事業所、  
有料老人ホーム創快館、葉山地域交流プラザ、グループホーム  
楽庵、葉山地域包括支援センター、楽園デイサービスセンター、  
葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 8. 沖野老人福祉センター、沖野居宅介護支援センター

### ～児童福祉事業～

P 9. 幼保連携型認定こども園仙台保育園

P 9. 柏木保育園

P 9～10. 富沢わかば保育園

P 10. 中山保育園

P 10～11. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P 11. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

### ～教育事業～

P 11～12. 仙台理容美容専門学校

# 《 令和5年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会 長 菅田 賢治

皆さん、明けましておめでとうございます。令和になって5度目のお正月は、天候にも恵まれそれほど寒くもなく、穏やかでゆっくり過ごされた事と思います。

さて令和5年は、母子生活支援施設仙台つばさ荘と柏木保育園の建物が築45年を迎え、母子生活支援施設仙台むつみ荘が築38年を迎える年になることから、改築計画を事業所の施設長や幹部職員を交え、仙台市行政とも相談しながら進めて行きたいと思っています。

また、仙台理美容専門学校は昨年度も大きな実績をあげました。児童部門と教育部門で大きな変化のある年ですので、皆さんのご協力を是非お願いしたいと思っています。

それから、令和5年度に向けても、新たな事業計画を各事業所で作成頂きながら進めていきたいと思っていますので、重ねて職員の皆さんのご協力ご助言、宜しく願いいたします。

副会長（業務執行理事） 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、当法人の各事業所においても、特に全国的に感染者が爆発した第7波、そして第8波と、感染者・濃厚接触者への対応や職員の配置等に大変ご苦労されたことと思います。各事業所の皆様のご苦労に対しまして、改めて敬意を表するとともに大変感謝申し上げます。今年も感染症対策は継続しなければいけません、引き続きよろしくお願い致します。

また、国外に目を向けると、ロシアによるウクライナへの軍事侵略で各国がロシアに対して経済制裁を行っている現在、日本では輸入物資の減少による物価の高騰が起こり、私たちの職場や生活への影響が今後どうなっていくのか非常に心配であります。国として何とかこの状況を打開して、国民の不安を少しでも和らげて欲しいと願っています。

さて、新年を迎え当法人の運営に関しては、職員の皆様のお力をお借りしながら多くの課題に対して真摯に向き合い取り組んで参りたいと思います。ご協力の程よろしくお願い致します。そして、それぞれの事業所におかれましては、今年1年実り多き年になるよう職員の皆様一人一人の力を十分に発揮され、職場をおおいに盛り上げていただくことをお願い致します。

結びに、各事業所のご繁栄と職員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

事務局長 小野寺 信也

新年あけましておめでとうございます。

法人の基本理念、経営方針を改めて読み返しました。基本を忘れることなく仕事に取り組む決意を新たにしました。専門家からのアドバイスを基に具体的な数字の目標を示し、コロナ禍で落ち込んだ経営の改善に努めます。

今年は、大きな転換の時と捉えています。沖野老人福祉センターの指定管理の受託、柏木保育園、仙台つばさ荘の新築、各事業所の大規模改修等の計画に着手して行きたいと考えております。また、コロナによる経営状況の悪化、介護施設の職員不足が続いております。また、保育士についても採用が困難な状況にあります。加えて、仙台理美容専門学校の学生数が昨年に比べ減少傾向にあると報告を受けております。

昨年、建築士に法人所有の建物の調査を行って頂きました。その調査報告書を基に、建て替

え、大規模修繕等、中長期の計画を立て、これからの運営に活かして行きます。

経営面では、顧問の辻・本郷税理士法人から人件費率が大幅に増加し経営を圧迫しているとの指摘を受けています。適正な職員の配置について、専門家、担当者からのアドバイスを基に大規模な人事異動を適時行っていきます。

いずれにしても、法人の役職員が一丸となって取り組んでいかなければなりません。

今まで以上の協力をお願いいたします。

## 養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年、新型コロナウイルス感染症の第7波がピークを迎えた8月、長生園でも初めての陽性者が発生、あっという間に施設内で感染が拡大しました。病床ひっ迫の状況から、高齢者施設では重症化するまでは施設内で療養しなければなりません。職員達が防護服を身にまとい感染症との長い戦いが始まりました。最終的に利用者・職員合計30名に感染が拡がり25日間で終息を迎えました。そして10月末に再び感染が拡大、17名が感染し終息まで28日間を要しました。利用者の皆さんには、ご迷惑とご心配をかけてしまいましたが、幸い皆さん元気に回復されております。職員にとっては、精神的・肉体的疲労を伴う2度の過酷な期間を乗り越えて、感染症対応の大きな学びを得たと共に、長生園職員の結束をより強固にした収穫がありました。今後の感染症対策や施設運営に活かしたいと思えます。

長生園に新たに措置される入所者は年々減少し続けており、現在の措置入所者数は定員150名中103名であり、入所率は69%と過去最低になっています。長生園は行政が入所を決める措置施設ですが、空床を活用した契約入所が認められています。9月より契約入所事業を開始したところ入所を希望する相談が多く寄せられ、昨年末まで5名の契約入所を受け入れました。今年も、行政に対して措置入所者の増加を要望していくと共に、地域包括支援センター等へのPR活動により契約入所者を増やし、在宅生活に困窮し不安を抱えている多くの高齢者を支援して行きたいと思えます。

本年もご指導ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

## 《 令和5年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負 》

総括施設長 植木 祐子

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に総括施設長を拝命し、ユニットケア施設群では4年ぶりの勤務となりました。新型コロナウイルス感染症の蔓延や、慢性的な介護人材不足の問題、介護保険サービス関連事業を巡る厳しい経営状況等々、非常に多くの課題に日々格闘しながらも、ご利用者様や職員に支えられ、新たな年を迎えることができました。

年末にかけては、施設群内の事業所でコロナ感染者が発生したことに伴い、職員の応援派遣や感染防止対策の再徹底等の対応を迫られました。コロナ禍においては、『じぶんの「いえ」 みんなの「まち」として 地域の皆様がいつでも集える ご家族がずっといたくなる ご利用者様がここで良かったと思える 楽しみと安らぎと望む生活の実現を目指します』という施設群の理念そのものを揺るがしかねない状況が続いております。コロナ禍の一日も早い収束を祈りつつ、アフターコロナにおける施設群の新たなあり方を模索する1年にしたいと思えます。

今年もよろしくお願ひ致します。

## 《 各事業所 新年の抱負 》

### 特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 植木 祐子

昨年は、新型コロナウイルス感染症の市中感染拡大の影響から、当園においても職員の家庭内感染の傾向が強まり、各フロアにおいて次々と感染や濃厚接触による自宅待機者が続き、シフト調整や時間外勤務等で不足人員をカバーする等、非常に厳しい状況が続きました。このような中で、敷地内に隣接する長生園や施設群内の事業所で複数感染があった際には、人員体制の厳しい中、介護職員を感染エリア勤務として派遣し、法人高齢者部門の1事業所として、また施設群の中核を担う事業所として、役割を果たすことができました。令和2年の新型コロナウイルス感染症の発生以来、これまで当園ご利用者様には一人の感染者も出すことなく済んでいることについて、看護師を中心とした施設内の徹底した感染予防対策と、プライベートも含め、職員一人一人が高い意識のもとに感染予防に取り組んできた賜物と、感謝しています。

仙台市内特養の例に漏れず、当園においても入所待機者数の減少傾向が顕著になっております。数年前には200名近い待機者がありましたが、現在は60～70名で推移しており、新規の入所受入れに困難を要することが多くなっています。ご利用者様にとっては長期間待たずに、必要なタイミングでスムーズに入所できる状況は喜ばしいことですが、我々施設側にとっては、いかに地域のご利用者様、ご家族様から選ばれる施設になるかという事に真摯に向き合い、取り組む必要があります。ユニットケア施設群内の連携は言うまでもなく、地域の方々や他法人、関係機関の方々からも信頼され、ニーズにフレキシブルに対応できる体制づくりと、全職員が同じ意識で臨むことが肝要だと思ひます。

また、介護人材不足の影響から、令和4年1月より本館の一部居室の稼働を控えた結果、上半期には経営的に大変な苦戦を強いられました。介護職はむろん、他職種においても、人材確保と人材育成に努めながら、全居室を稼働させ、より多くのご利用者様を受入れる事で、安定した経営に繋がるよう取り組んでまいります。

### 住宅型有料老人ホーム 創快館

施設長 植木 祐子

前任者からの引継ぎを経て、ご利用者様ならびに職員ひとりひとりとコミュニケーションを図りながら、住宅型有料老人ホーム創快館の運営に携わってまいりました。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、昨年もこれまで同様に感染症予防対策に努めた1年でした。ご利用者様、ご家族の皆様には、面会や一部外出の制限等多くのご理解とご協力を賜り、お陰様でご利用者様については、お1人の感染者も出すことなく年を越すことができました。改めて感謝を申し上げたいと思ひます。

これまで創快館では、全11室という限られた居室数の為、新規のご利用者様をお迎えする上で多くの制約がございましたが、令和4年11月より定員数の見直しを行い、一定以上のスペースが確保できる居室について、ご夫婦・兄弟姉妹・親子等お2人での入居が可能となりました。11月には新たに3名のご利用者様をお迎えして満室となり、久しぶりでご夫婦の入居をお迎えしたことは何より嬉しいニュースといえます。

また、夜間緊急時等の対応について、セコム緊急通報システムに加え、併設の仙台楽生園フリー夜勤者及び看護師等の協力・連携体制を整え、昨年12月より運用を開始致しました。ユニットケア施設群の機能を活かし、ご利用者の皆様がより安全に、安心してお過

ごしいただけるよう、これからも努めてまいります。

## 葉山地域交流プラザ

館長 石井 紀之

令和4年においては、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、施設内の感染症防止対策を優先し、利用制限などの対応を余儀なくされました。結果として、地域交流事業の年間延利用者数は、喫茶レストラン「茶楽」が職員や利用者様を中心に約2,500人、展望風呂「天空館」は創快館利用者様を中心に延べ約1,200人、理美容室「g gバーバー・美楽る」は約600人、オレンジカフェは約40人で、葉山予防リハビリセンター、葉山の森おもちゃ図書館、地域交流プラザホール、ボランティア活動センターは利用がございませんでした。

このような情勢下ではありましたが、感染症防止対策を万全に整えた上で制限を緩和し、施設内で協力して創意工夫をしながら、夏祭りや文化祭等のイベント運営に尽力して参りました。今後も適切な感染防止策に取り組みながら、新しい生活様式に沿った地域支援・地域交流の在り方を模索していきたいと思っております。

令和5年度においては、喫茶「茶楽」の運営を委託しているパーソナルサポートセンターより撤退の申し出があり、当面の運営を休止する予定です。また、展望風呂「天空館」については、経費削減の観点から12月より大浴場を停止し、中浴場のみ稼働となる予定です。展望風呂「天空館」についても地域への開放ができなくなる見込みです。葉山地域交流プラザの中核を担う喫茶「茶楽」と展望風呂「天空館」の事業休止・縮小が確実な事から、ポストコロナに備え、新たな地域との連携事業を準備・検討しております。今後も施設ご利用者様、地域の皆様に楽しく安心してご利用いただくために、新たな企画やサービスを展開し、地域支援・地域貢献に重点を置いた内容の充実に努め、共生社会の実現の一助になるように努力して参ります。

## グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は管理者の変更、スタッフの退職、新規採用と、サービス提供側にも大きな変化があったとともに、ご入居者においても2度の入退居があり、まさに“激変”の一年でもありました。大きな変化の中、事業所理念である『喜笑和絆』を合言葉に、ご入居者には今までと“変わりのない”安心した暮らしを、スタッフには今までと“変わりのない”働きやすい環境を提供できるように努めました。

その一方で、事業所が適正な事業を運営できるように、また、より良いサービスを提供できるように、“変わる”ための体制を整えた一年でもありました。とくに、人材育成には力を入れており、年間研修計画の下、全スタッフが計画性のある継続した学びができるように努めました。また、法令順守の下、スタッフ一人ひとりの資質の向上、チームケアの質が向上できるように事業所内の会議や委員会の体制整備も進めてきました。

新年の抱負としては、“地域交流”“家族連携”“認知症ケアの向上”を掲げ、実践していきたいと考えています。新型コロナウイルスについては、年末にかけ利用者、職員に複数感染者が発生し、併設の楽生園より応援派遣を得て対応しているところです。今後も予断を許さない状況が続きますが、“家庭的な環境と地域住民との交流の下”といったグループホームに課せられた機能を見失わず、少しでも本来のグループホームらしさを取り戻せるように、全スタッフがアイデアを出し合いながら積極的に認知症ケアに取り組んでまいります。

ご入居者、ご家族、地域の方々、スタッフの一人ひとりが“よろこび”と“つながり”を感

しながら、笑顔で和やかに過ごせる事業所づくりを行ってまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。

## 葉山地域包括支援センター

所 長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の蔓延で、地域支援活動に支障を来たす場合もありましたが、少人数開催や密にならない会場設定、換気やマスク等の感染対策を徹底することにより、ある程度の活動ができたのではないかと思います。仙台市介護保険事業計画の基本目標として「高齢者が健康で生きがいを感じながら社会を支え続けるとともに、地域で安心して誰もが自分らしく暮らす事が出来る社会の実現を目指す」ことを掲げています。

具体的には、①健康寿命を延伸するとともに社会で活躍し続けるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②ともに支え合い安心して暮らし続けるために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。さらに自主グループへの後方支援などを行っていきます。③認知症の方が希望をもって自分らしく暮らし続ける事が出来る取り組みについては、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

新年の抱負としては、これらの目標に基づきながら、新型コロナウイルス感染症の流行前に近づけるように活動してまいります。また、新たな事業として銀行での出張相談を開催したり、引き続きフレイル予防に力を入れたり、新型コロナ感染拡大による閉じこもりを少しでも無くし、他者交流の機会を持てるよう新たに集える場所の創出をしていきたいと考えています。混沌とした時代のせいもあり、多種多様な相談が増加傾向にありますが、スタッフ一同で真摯に対応し、「ここで暮らしていきたい」と思えるような地域づくりを目指してまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。

## 楽園デイサービスセンター

所 長 小船 正明

楽園デイサービスセンターでは、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中で、感染防止対策に努めながら、安心してご利用いただけるよう全職員で取り組んで参りましたが、市中感染拡大の影響を受け、数日間の営業休止を余儀なくされました。事業再開時には、これまでの感染防止対策の見直しと併せて、職員の体調不良時での早期の抗原検査の実施を取り入れ、事業所に持ち込まない体制を整えました。また事業所内の安全対策として、無断外出対応訓練や防火訓練などを実施した他、避難経路となる「なごみ」の窓ガラスへの飛散防止フィルムの設置を行いました。

サービス面では、ご利用者様の認知症を予防、緩和できるような活動内容を都度検討して参りました。外出行事は少人数で実施し、季節ごとの料理会や夏祭り・長寿を祝う会などの活動を通して楽しんでいただくことができました。外部に向けての活動については、感染拡大の影響を受け中止とすることが多い年となりましたが、今後の再開に向けて準備を整えて参ります。

経営状況は、コロナ禍の影響もあり、稼働率が50%台の時もありましたが、65%台まで回復しております。今後も改善に向けての営業活動を積極的に行い、ユニットケア施設群内での協力体制のもと稼働率を更に増やすことを目標としております。

最後として寒さだけでなく新型コロナウイルスへの配慮が欠かせない日々が続いておりますが、今年も理念に掲げている「いこいの一時、なごみの空間、楽しみの園」を提供できるよう、

より一層尽力して参ります。

## 葉山ケアプランセンター

所 長 小 船 正 明

ケアプランセンターも新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、利用者様が安心して在宅生活を継続できるよう個別のニーズに合わせての支援に努めて参りました。稼働率に関しては、新規のご利用者様や再開のご利用者様を受け入れても、施設入所や入院等の理由で終了する方も多く、稼働率はほぼ横ばいの1年でした。

事業面では、昨年12月に数年ぶりとなる運営指導とケアプラン適正化事業を受け、事業所として適正な事業が実施できているとの評価をいただくことができましたが、今後さらに事業所として成長するための助言も受けましたので取り組んで参ります。

またコロナ禍において、サービス担当者会議や外部研修等もオンラインを活用しての実施が多くなっており、当事業所でもタブレットを2台購入し、ICTの環境に対応できるよう事業所内での勉強会も開始いたしました。今後のタブレットの活用により職員個々の自己研鑽としても期待しています。

今後は利用者数を増やすことを目標に、施設群内の各事業所との連携を図って参ります。在宅で生活を続けるご利用者様とご家族様が安心してサービスを受けられるよう、感染症予防対策として「マスクを着用」、「手洗いなどの手指衛生」、「換気」、「短時間訪問」などの基本的な感染対策にご協力をいただきながら、ご利用者様、ご家族様、各関係機関との信頼の構築に努め、安心を届けられる事業所を目指して参ります。

## 葉山ヘルパーセンター（介護部門・障がい部門）

所 長 小 船 正 明

ヘルパーセンターも新型コロナウイルスが感染拡大する中で、感染予防に努めながら在宅生活の継続ができるようサービスに努めて参りました。特に新型コロナウイルスの判定や濃厚接触者とされる方に関するサービス提供のあり方についても、ユニットケア施設群内のコロナ対策委員会で検討し、時にはガウン着用、N95マスクを装着したうえで、サービス提供に向かいました。常に心配を抱えながらも感染予防に細心の注意を払い、不安と思われる場合には抗原検査を実施しての訪問介護サービスでした。

この1年間を振り返ると介護部門では要介護者の件数は、ほぼ横ばいに対して、介護予防のご利用者様は4月から約20名増えました。障害部門では、件数は横ばいの状況であり、サービスのご依頼はあるものの人員体制の面でサービスを受けられない状況でした。またコロナ禍の影響から事業所内の勉強会が開催できず、「職員の育成」については課題となりましたので、勉強会を再開させたいと思っています。

新しい年を迎え、感染予防対策の継続、徹底と感染者を出さない事を目標に、訪問時には、「マスクを着用」、「手洗いなどの手指衛生」、「換気のお願ひ」、「健康状態の確認」などの基本的な感染対策をご利用者様、ご家族様にもご協力をいただきながら、住み慣れた地域の中で安心して生活を継続できるようにサービスの実践をして参ります。

## 沖野老人福祉センター

館長 天野 博美

あけましておめでとうございます。

沖野老人福祉センターは、昨年も新型コロナウイルス感染予防を徹底し、館内で感染拡大することはなく、通常に近い形でご利用者様をお迎えし、営業を継続することができました。「マスクをつける、消毒をする、三密を避ける」等々、感染予防が当たり前の生活になってきていることを実感した1年でもありました。

仙台市内の老人福祉センターの施設利用ルールに則りながら、昨年は『ウイズコロナ』の言葉の通り、コロナ感染予防に充分注意し、『通常』に近づけられるよう活動を継続しました。コロナで長く活動を休止していた民謡教室も再開し、活気が戻ってきたように感じます。11月には、大規模改修工事が終了した沖野市民センターのお披露目も兼ねた市民活動発表会が盛大に行われました。当センターでも、ステージ発表や作品展示を通し日頃の成果を多くの皆様に披露することができたことは、参加している方々にとって大きな励みになったことと思います。

また、新たな取り組みとして、認知症専門医による認知症理解促進の研修（コロナ禍の為にリモートでの開催）と、法人内認知症指導者による認知症サポーター養成講座を実施しました。どちらも大変好評で、多くの方に参加して頂けたので、今後も継続してゆきたいと思います。『認知症になっても安心して暮らせる沖野』をスローガンに掲げ、福祉委員会にも所属し、地域の皆さんと一緒に活動する老人福祉センターにしてゆきたいと考えております。

当センターは平成3年の開設から30年が経過し、建物の長寿命化を図る為大規模改修工事を予定しております。その為、令和5年1月から10月末迄の予定で休館に入りました。休館中は近隣に仮事務所を構え、沖野市民センターなどの部屋を借りて、縮小した形になりますが活動を継続して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

## 沖野居宅介護支援センター

所長 天野 博美

昨年はオミクロン株の第7波、第8波による感染者の急激な増加により、各種在宅サービスの事業所においても、コロナ感染が絶え間なく報告され、サービス調整に苦労した1年だったと思います。しかし、そのような中であっても、当事業所関係者には、感染しても重篤化する方はおらず、一安心して1年を終えることができました。

当事業所は、管理者兼主任介護支援専門員の1名体制で営業している為、管理者はコロナ感染が続く中、公私ともに細心の注意を払って生活し、気を抜くことはできなかったと思います。万が一のことを考え当センターでも、即応性のある内容のBCPの見直しが必要になってくると感じています。

また、介護支援専門員は、常に情報収集に努め、新しい情報を持つ必要があります。コロナ禍において、学びの機会が減っていることも事実ではありますが、最近ではオンラインでの研修が主流になってきているため、多くの研修の中から、必要な研修を選んで参加することが可能になりました。参加した研修の内容を、所長、管理者で共有しながら、事業所として更なる成長を目指して研鑽を重ねてゆきたいと思っております。

令和5年は、併設の老人福祉センターの大規模改修工事が始まる為、当センターも仮事務所に移転しての営業となりますが、ケアマネジメント業務については、滞りなく継続してゆけるよう、所長、ケアマネ協力してご利用者のサポートにあたりたいと思っております。本年もよろしくお願い致します。



## 幼保連携型認定こども園仙台保育園

園長 土屋 志津子

あけましておめでとうございます。

幼保連携型認定こども園に移行して2年目の昨年でしたが、新型コロナウイルス感染症により、日々の保育やひとつひとつの行事について見直し、話し合うとともに、保護者の皆様にもご協力いただいて進めてきた1年となりました。これからも手洗い・手指消毒・うがい、こまめな換気、施設の衛生管理、ワクチン接種などの、感染対策を行いながら、より良い保育を目指すとともに、どうすれば行事を行うことができるかを皆で考え、工夫して取り組んでいきたいと思っています。

仙台保育園の職員全体の目標は、◎未来を担う子どもの最善の利益を考慮し、成長の喜びを保護者と共有する ◎家庭的な温かい雰囲気の中で一人ひとりを大切にし、情緒の安定を図り、主体的に活動できるようにする としております。今年もこれは変わることはなく、職員一人ひとりがお互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にすることが必要で、子ども達にそういう大人の良い姿を見せつつ、子ども優先、保護者に寄り添うという姿勢を忘れずにいたいと思っています。昨今、幼い子どもが巻き込まれる事故や事件の報道が多くありますが、仙台保育園は今後も、子ども達が楽しく過ごし明日も来たいと思える場所、保護者の皆様が大切なお子さんを安心して預けることができる場所であるよう、職員一同、心をひとつにしていきたいと思います。子ども達、保護者の方々、そして職員も笑顔あふれる1年となるようにと願っております。

どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

## 柏木保育園

園長 高野 誠

新年あけましておめでとうございます。

昨年、保育業界では、保育園(所)における不適切保育や送迎バスでの園児置き去り事故等々、子どもを預かる立場の私たちにとっては心の痛むような事件、事故が数多く起きました。

また、新型コロナウイルス関係では、日常を取り戻しつつある世の中ではありますが、保育現場では相変わらず新型コロナウイルス感染防止対策に追われ日々を過ごしております。

子どもたちにとって、先の見えない何が起きてもおかしくない世の中だからこそ、心新たに子どもたちの明るい未来に向けて私たちは邁進していかなければなりません。

柏木保育園では、今年は、主任、副主任の指導職と中堅保育士を中心に力を合わせ、保育力の底上げ、保育の質の向上に努めていきたいと思っております。何よりも保育の質の向上には、保育士の子どもたちをワクワクさせたいという気持ちと職員同士のコミュニケーションが不可欠と考えます。そして、子どもと向き合う保育士自身がワクワク出来るような職場の雰囲気を作り上げていきたいと考えています。

経営面では、子どもの絶対数が減っているという状況下を考えると何とか出来るというより何とかしなければという結論に至ります。節約はもちろんですが、保育の質を上げ選ばれる保育園として今後も職員一同力を合わせてまいります。

どうぞ、今年もよろしく願い申し上げます。

## 富沢わかば保育園

園長 木村 裕子

新年あけましておめでとうございます。仙台市は待機児童が0人となりましたが、地域によっては、定員数の確保が難しく定員数を減数せざるを得ない保育園も少なくありません。太白

区富沢西地区は次々に住宅が増えてきているので今のところは、定員割れがなく毎年次年度の入園申込みの見学では多くの方々に来ていただいて、富沢わかば保育園の入園を希望されており嬉しく思います。ありがたいことだと思います。特に育児休暇明けの1歳児クラスの希望が多いのですが床面積の関係で8人の定員が限度です。0歳児クラスから進級すると実際には2名しか入園出来ないのが現状です。

昨年保育園で様々な虐待が報道されました。子どもにとって大好きな先生のいる保育園で毎日楽しく生活出来ることが一番です。その子どもの様子を見ている保護者の皆様も安心して預けていただけるような保育園でありたいと常に思っております。大切な命を預かっていることを保育士一人一人が再認識して保育しなければなりません。

富沢わかば保育園ではウッドデッキと門の修繕工事が終了し、防犯・不審者対応策として正門入り口にインターフォンを設置しました。又、今年はICT化を導入する予定です。新しいことを始めるにあたってワクワクな気分になります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 中山保育園

園長 庄子 美智子

令和5年の年が明けて皆様方、穏やかに過ごしのことと思います。

昨年令和4年は、新型コロナウイルスの発生から3年目を迎え、感染拡大防止、予防をしながらも年度初めに計画したことをできるだけ実施できるように職員で話し合いを持って進めてきました。その結果、保護者参加行事もほぼ計画を変更することなく実施することができました。ただ、夏頃から当保育園においても新型コロナウイルスの家庭内感染から園児も感染することが多くなり、その波も秋にはいったん収まりましたが、11月に入り、新しい感染の波があり、12月に予定していた発表会は中止をせざる得なくなり、別の形で発表会を実施することにしました。

仙台市の運営支援課は6月から新型コロナウイルスの感染者についての方針を変更、できるだけ休園はしない、保健所で決めていた濃厚接触者を園で決める、ということになったので慎重に保護者には対応してきました。十分な理解や協力をいただき休園することなく令和5年を迎えることが出来ました。

また、令和4年度から進めてきました中山保育園のこども園への移行ですが、いよいよ令和5年度4月から「幼保連携型認定こども園中山保育園」になります。それに伴い保護者の方には混乱等が起きないように職員も研修等をしっかり行い業務を進めていきます。

国の動きとしては、令和5年4月には、文部科学省、厚生労働省、内閣府等、各省庁に分散していた子ども政策の縦割りを無くし、統合して推進する『こども家庭庁』が創設されます。今後の動きに大いに期待するところです。国会で成立した『こども基本法』についてもしっかり勉強していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 仙台つばさ荘

施設長 菅田 賢治

新年、明けましておめでとうございます。

平成28年に児童福祉法が改正され、その理念が大きく変化いたしました。それは、家庭養育を最優先とし施設養育は、最終手段と位置づけられたのです。母子生活支援施設は、戦後一貫して家庭養育のなかで、養育される子どもと養育を行う母親への支援を進めてきました。現

在、都道府県では社会的養育の推進計画の策定を終了し、その計画推進に向けて動いています。仙台つばさ荘も昨年に引き続き今年も、その活動を強めてまいりたいと思います。また日々の支援事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます、年頭のあいさつとさせていただきます。

## 仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら、施設内の生活や行事内容をコロナ禍前の形に少しずつ戻していきました。先日実施したクリスマス会は、短時間ではありましたが、入所者と職員が集まって、子供たちや職員の出しもの、「むつみ荘の一年」のスライドを見て歓声や笑い声に包まれた温かいひと時となり、行事の良さを再確認しました。長い長いコロナ禍の間に、入所世帯が全て入れ替わり、現在はコロナ禍前のむつみ荘での生活や行事の様子を知っている世帯はおりません。これを良い機会と捉え、集団生活のルールや行事内容が施設の都合優先になっていないかを見直し、入所者のニーズに即したものに変わっていく時期に来ていると感じております。

今年4月1日に子ども家庭庁が設置され、子ども基本法が施行されます。子どもを権利の主体として位置付けた法律。子どもの支援に関わっている私たちは、子ども基本法を支援に結びつけるために、しっかり学ぶ1年にします。

母子生活支援施設の業務の中には、退所後のアフター支援や地域支援も含まれており、施設内の支援と並行して行いますが、前述した様に入所間もない世帯が多いため、まずは入所者との信頼関係づくりに力を注ぎ、各世帯の様々な課題に向き合いながら、笑顔の絶えない1年でありたいと思います。

ハード面では、建物の築年数が37年を超え、あちらこちらに不具合が出始めていますので、その都度修繕しながら安心安全な生活を提供します。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、全国で新型コロナウイルス感染症が爆発的に発生し、本校も夏休み目前にして初めて校内でクラスターが発生し、急遽、臨時休校にしてそのまま夏休みに入る決断をしました。その後現在までクラスターは発生していませんが、感染力の高さを改めて感じたとともに、振り返ると昨年も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年だったように思います。その中でも明るい話題として、2年続けて中止になっていた「全国理容美容学生技術大会」通称「理美容甲子園」が3年ぶりに開催されることとなり、全国大会出場をかけた東北地区大会が7月に岩手県盛岡市で開催され、全国大会代表枠が18名という狭き門の中で、本校学生が11名入りました。更に11月に大阪で開催された「全国理容美容学生技術大会」では、理容科の学生が準優勝と4位入賞、美容科の学生も4位入賞と3名の入賞者を出すことができ、全国でもトップクラスの技術力の高さを証明することができました。今年も「全国理容美容学生技術大会」が開催されることが決定しているので、昨年以上の成績を目標に技術指導を強化していきたいと思っています。

さて、本校の毎年の共通目標は、「質の高い教育」、「学びの環境の充実」、「学生募集活動の強化」ですが、今年は特に教育内容の充実を図ることと、入学者の減少が著しいため学生募集

活動の強化に力を入れていきたいと思ひます。次年度以降、教育内容の充実や入学者増に繋がるよう、今年も教職員「心を一ツ」にして頑張っていきたく思ひます。 本年もどうぞよろしくお願ひ致します。